

筑後広域風致景観のルールづくり
景観モデル地区

小郡市松崎地区
景観形成の方針

2007年5月

筑後景観協議会

目 次

はじめに	1
1 . 地区の概要	2
(1) 地区の位置	2
(2) 土地利用・主要施設	2
(3) 人口等	2
2 . 地区の歴史と背景	3
(1) 地区の由来	3
(2) 宿場町の繁栄と衰退	3
(3) 近代の歴史	3
(4) 旅籠油屋を中心とした町並み保存運動	3
3 . 地区の現状と課題	5
(1) 地区の現状	5
(2) 地区の課題	14
(3) まとめ	17
4 . 景観形成の目標と方針	18
(1) 景観形成の目標	18
(2) 景観形成の方針	19
5 . 今後の具体的な展開案	20
(1) 短期的な活動の展開	20
(2) 長期的な活動の展開	20
6 . 平成 18 年度の調査プロセス	21
平成 1 8 年度の活動内容概要	21
(1) 松崎探検	22
(2) 景観セミナー	24
(3) フィールド・サーベイ	25
(4) わがまちウォッチングワークショップ	26
(5) 類似施設視察	27
(6) 福岡県景観大会での活動報告、パネル展示	28
(7) 夜なべ談義	28
(8) 桜まつり (松崎街道百年ばなし)	28

はじめに

小郡市松崎地区は、薩摩街道の宿場町として、江戸時代よりおよそ350年の歴史を持つ集落である。明治以降、宿駅制度が廃止され、西鉄大牟田線の開通などにより、交通の要衝としての役割を終えるが、その後も三井地域の中心的なまちとして、繁栄を維持してきた。また、松崎宿から旧松崎城につながる大手筋であった桜馬場には、山桜が立ち並び、古くから景勝地として著名な地であった。

「文学散歩」や明治村の建設など日本の歴史的風土の保存活動を実践した野田宇太郎（1909～1984）の生誕の地でもあり、作家、檀一雄との縁もある。

現在も松崎地区には、旅籠油屋をはじめ、一松屋、鶴小屋などの旅籠建築、構口などの歴史的建造物が残る。1992（平成4）年には台風で破損した旅籠油屋の保存運動に向け、「松崎地区町並み保存会」が結成されている。

しかし、地区の高齢化の進展とともに、空き家・空き地が増え、まちの賑わいは失われつつある。江戸時代以降、各時代の歴史的な雰囲気を感じさせるまちの資源は、変容する町並みの中に埋もれ、本来の松崎地区の持つ魅力は、あまり感じられなくなっている。

また、市の有形指定文化財に指定された旅籠油屋の復元・整備が待たれるが、単なる施設整備にとどめることなく、これまでの地域住民の主体となったまちづくり活動とうまく連動し、地区全体の活性化に広げることが望まれる。

このような背景から、今回の取り組みは、「豊かな歴史的資源も持つ集落」における、「地域住民が主体的に活動する」景観づくりのモデル地区として、セミナーやワークショップなどを実施し、今後の景観形成の方針を定めるものである。

1. 地区の概要

(1) 地区の位置

小郡市松崎地区は、小郡市の東部、大
刀洗町との市境に位置する。地区の北側
には甘木鉄道が通り、また、大分自動車
道の筑後小郡インターチェンジからも
近い。地区の東側には主要地方道久留米
筑紫野線のバイパスが通る。



筑後地域での松崎地区の位置

(2) 土地利用・主要施設

松崎地区は、市街化調整区域で、農業
振興地域の白地地域である(大規模既存
集落)。地区内には県立三井高校があり、
近接して小郡養護学校が立地している。

(3) 人口等

平成 18 年 4 月 1 日現在の松崎地区の人口は 1,076 人、世帯数は 379 戸である。高齢
化率(65 歳以上の占める割合)は 31.1%で、小郡全市の 19.0%と比較して、非常に高齢
化が進んでいる。

松崎宿・松崎地区の範囲



2. 地区の歴史と背景

(1) 地区の由来

松崎は1668(寛文8)年、有馬豊範が御原郡19ヶ村一万石の分知を受け、御原郡内の山隈原の一角に城を築いたことに由来する。1674(延宝2)年に、松崎街道が天下道と定められ、参勤交代道路となったことから宿場町として整備された。

1684(貞享元)年、松崎藩は改易され、久留米藩お預けとなり、松崎城は幕府によって取り壊された。その翌年から松崎は13年間天領となり、その後久留米有馬藩の所領に戻ることもなるが、松崎往還の主要道路としての取り扱いは変わらず、筑後地域の重要な宿場町として繁栄していった。

(2) 宿場町の繁栄と衰退

宿駅制度の成立に伴い、久留米藩の領内の八宿に人馬継立機能を持たせたが、この内、薩摩街道の三宿(羽犬塚、府中、松崎)と柳川からの参府街道筋にあたる上野宿は特に重視され、宿場駕籠・人足・馬が常備され、それらの業務を行う問屋場の設置の他、諸大名が利用する御茶屋の整備も行われた。また、松崎宿は薩摩街道と英彦山道(長崎街道田代宿~英彦山)が交差する箇所にもあたり、肥前方面から多くの参拝者が通り、人馬や物資の集まる交通の要衝であった。

江戸末期(1866年文書)松崎宿の総戸数は129軒、「お茶屋」、「脇本陣」を含め旅籠26軒、煮売屋6軒があり、藩主や大名を宿泊させる御茶屋、旅籠以外に手紙の配達や物資運搬を行う「駅伝(継立)」や「立場茶屋」、食料品や日用品を扱う商家があった。宿場運営には庄屋・町別当らによる合議制で行われていた。

しかし、1869(明治2)年、関所の廃止、1870(明治3)年、本陣の廃止、そして1872(明治5)年、宿駅制度が廃止(宿駅と助郷制度の廃止)されると衰退していった。

(3) 近代の歴史

1889(明治20)年、鹿児島本線が、1924(大正13)年、西鉄大牟田線が小都市の西部に開通したことによって、松崎地区は交通の要衝としての役割を終えることになるが、その後も警察署、法務局などが設置され、三井郡の中心的なまちとして発展していった。

江戸時代に植えられた桜馬場は、戦前には絵葉書がつくられるほどの県下でも有数の桜の名所として知られ、1933(昭和8)年には福岡県の天然記念物の指定を受けたことが新聞にも紹介されている。

(4) 旅籠油屋を中心とした町並み保存運動

1991(平成3)年の台風19号により、江戸時代に築造された旅籠油屋が被害を受けたことをきっかけに、地元でその保存を求める声が高まった。1992(平成4)年には「松崎地区町並み保存会」が結成され、暫定的な補修や基金の設置などが行われた。2001(平成13)年には、旅籠油屋は、市指定有形文化財に指定され、翌年、「旧松崎旅籠油屋整備活用計画検討委員会」が立ち上がり、2004(平成16)年3月、「旧松崎旅籠油屋保存整備基本計画書」が作成されている。

旅籠油屋には、建物以外にも当時使用されていたお膳や看板なども残っており、2002（平成14）年、三原家土蔵・洋館を市が借り上げ、現在、展示施設（松崎宿歴史資料館）として利用している。2003（平成15）年以降、地元保存会が旅籠油屋と資料館の清掃委託を受け、管理を行っている。

3. 地区の現状と課題

(1) 地区の現状

松崎地区には、宿場町としての歴史的資源をはじめ、自然環境や公的施設等のハード資源、地域住民の方々による活動などのソフト資源がある。

松崎地区の主な地域資源の分布



歴史的資源

1) 薩摩街道

薩摩街道であった道路には、構口が残り、往時より道幅が変わらないという。現在、主要地方道久留米筑紫野線が南北を貫いたため、本来の街道の形状がわかりにくくなっているが、「枅形」と呼ばれるかぎ型の形状もそのまま残っている。久留米藩の端宿として、防衛のためにつくられた「枅形」の道の形状は、詩人野田宇太郎も「稲妻」という詩で表現している。



北側の枅形



南側の枅形

2) 構口

宿場の南北出入り口の道の両側には「構口」が残り、市の有形文化財に指定されている。縦横二間四方、高さ一間の石垣で、全国でも道路拡幅等によりそのほとんどが失われ、両出入り口4つの石垣が残っていることは珍しい。現在は、文化財の説明看板が設置されている。



北構口



南構口

3) 旅籠建築等

松崎地区には、旅籠建築として、江戸時代に築城された旅籠油屋(市指定有形文化財)、旅籠一松屋、明治以降の建築と考えられる旅籠鶴小屋が残っている。いずれも改築を受け、往時の形態とは一部異なっていたり、老朽化が進み、台風等の被害による破損が進んでいる。他に大正期に建設された三原家の土蔵・洋館や白壁なども一部残っている。



旅籠油屋



旅籠一松屋



旅籠鶴小屋



三原家土蔵・洋館

4) 祠、記念碑など

松崎地区には、通りに面して、恵比寿さんなどの祠や石碑などの歴史的な工作物が数多く点在しており、江戸から明治・大正期各時代の歴史を今に伝えている。

また、松崎に生まれ、「文学散歩」などで有名な野田宇太郎の文学碑も整備されており、毎年10月に生誕祭が開催されている。



上町の恵比須さん



中町の恵比寿さん



下町の恵比寿さん



下町の恵比寿さん



野田宇太郎文学碑



野田宇太郎

野田宇太郎は、明治 42 年 10 月、三井郡立石村大字松崎（現福岡県小郡市松崎）に生まれた。

詩人としての活動は、昭和 5 年、久留米に出て同人誌「街路樹」に参加した頃から始まり、昭和 8 年、処女詩集「北の部屋」を刊行。昭和 11 年には、詩誌「糧」（後に「抒情詩」と改題）を創刊し、盛んな詩作活動を展開した。ここからは、丸山豊、安西均など優れた詩人も輩出されている。また、昭和 17 年に出版された「旅愁」は、詩集のベストセラーとなり、野田は詩壇に揺るぎない位置をしめた。



昭和 15 年、上京して出版社に入社し、雑誌「新風土」を編集、下村湖人の埋もれた原稿「次郎物語」を出版してベストセラーにするなど、優れた出版編集者として活躍。昭和 19 年には、戦争末期ただ一つの文芸誌となった「文藝」の責任編集者として、あらゆる困難に立ち向かって文芸の灯を守った。野田の編集者としての鋭い批評眼と人物発掘には定評があり、その手がけた雑誌より、当时无名だった三島由紀夫や幸田文らを作家として世に送り出した。

「文学散歩」の語は、野田宇太郎の創案になるもので、昭和 26 年「日本読書新聞」に「新東京文学散歩」を連載したことに始まる。以来 30 余年にわたる「文学散歩」は、野田のライフワークとなり、シリーズ 27 巻が刊行された。「文学散歩」は、実地踏査による文学の実証的研究書の先駆けであるばかりでなく、独自の優れた紀行文学でもある。野田が「文学散歩」の執筆を決意したのは、戦争と戦後の無惨な文化遺産、自然風土の破壊に対する文学者としての憤りからで、「過去の目標を失えば、同時に未来の目標も失う」という野田の言葉は「文学散歩」を生みだし、藤村記念堂、鷗外記念館、明治村の建設など歴史的風土の保存への情熱と人力は「文学散歩」の意義の実践であった。

昭和 59 年 74 歳で亡くなった野田の貴重な蔵書、資料約 3 万点は、その遺言により、ふるさと小郡に寄贈された。近代文学の名著の初版本や、明治、大正の文芸雑誌、著名な作家の原稿、書簡類、16 世紀ベネチア刊の「天正遣欧使節記」をはじめとするキリシタン資料、文学散歩によって収集された諸資料は、今なお近代文学、文化史の研究にとって重要なものとして、小郡図書館内の野田宇太郎文学資料館に保存され、活用されている。

稲妻
野田宇太郎

わがふるさとは
筑後松崎
稲妻形にうらぶれた
とほい昔の宿場町

上町と下町の端れには
野苺の白い花咲く御番所の石垣だけが残り

歯の抜けた老人のやうな街並には
ブレハフ住宅も建ってゐる
その家から近くの新興の町工場へ
自家用車を走らせる青年もゐる

みんな知らない顔だが
だうやら夢ではないらしい

わがふるさとは
筑後松崎

心の中に稲妻が走るときだけ
よみがへる昔の宿場町

その他の地域資源

1) 自然環境

桜馬場は、江戸時代、有馬豊範が城から街道への通り道に山桜を植え、馬場としたことに由来する。約 300m の通りに約 150 本の桜がある。戦前から県下有数の桜の名所として知られていたが、戦時におけるトラックの往来等により多くが枯れ、その後、自動車交通量の増加によって、枝が折られ、老木が弱っているという。現在、地元「松友会」などを中心に「桜まつり」を開催したり、管理や育成を行っている。



桜馬場



春の桜馬場

かつて宿場町であった松崎は、防衛のために藪で全体を取り囲んでいた。その名残が今も残っている。

また、筑後地域は、植木・苗木の産地として有名であるが、松崎地区の周囲の畑でも植木・苗木の栽培が見られる。



今も残る藪



植木・苗木の畑

2) 公的施設

現在、松崎地区には、県立三井高校、その隣に松崎保育園等の公的施設が立地している。また、かつて法務局三井出張所として使われていた建物も残っている。



三井高校



法務局跡

3) 地域活動

1989(平成元)年、地域住民の親交を深めるために結成された「松友会」は、現在、様々な地域活動やまちづくり活動を行っている。桜馬場での「桜まつり」や地域の様々なお祭り、子どもたちのためのキャンプ場や釣堀づくりなど地域のほとんどの活動に関わっている。他にも地域の団体が、桜馬場に花を植えるなどの活動がある。

また、1992(平成4)年、旅籠油屋の保存をきっかけに「松崎地区町並み保存会」が結成されている。



桜まつりの様子



桜馬場に植えられている花

旧薩摩街道沿いの現状

1) 街道に面した宅地

明治期の字図と現在の松崎の地図を比較すると、旧薩摩街道の線形は、ほぼそのまま残っていることがわかる。かつてよりその街道に面して宅地が並んでいたが、いずれも間口が狭く、奥に細長い形状となっている。これは、当時の地租が間口の広さで決められたためである。

敷地の形状は今もその名残を残しているが、老朽化した建物を建て替える際に、自動車の利用を考え、街道に面して駐車場などを設け、建物が奥に建て替えられているところが多い。そのため、通りに面した建物の連続的な景観が失われている。

また、街道に面して、空き地や空き家が数ヶ所見られ、街道の歴史的な趣きを失わせる原因となっている。

街道に面した宅地の現状

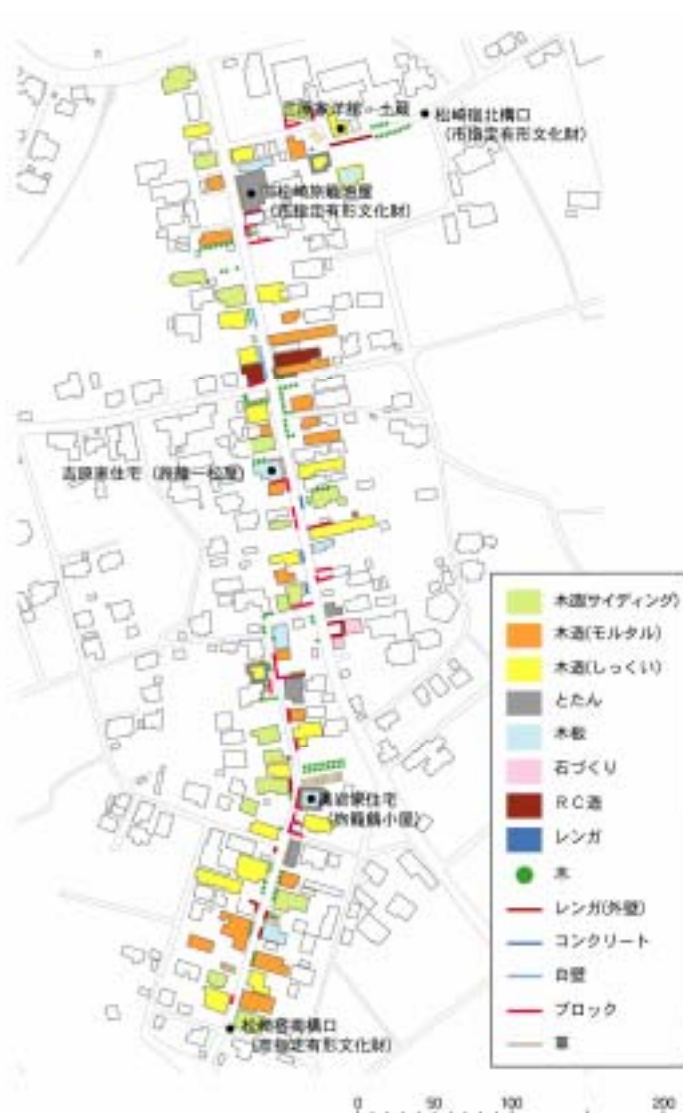


2) 街道に面した建物

松崎地区の旧薩摩街道沿いには、江戸時代以降の各年代の建築物が混在しているのが現状で、木造の建築物がほとんどであるが、外壁は、古いものはしっくいなどが用いられているものの、比較的新しいものは、モルタルやサイディングなどが用いられている。

また、外構についても、生け垣などで遮っているものやレンガ、コンクリートブロックなどを用いているものなど様々である。

街道に面した建物の現状



3) 街道に面した工作物等

旧薩摩街道に面して、恵比寿（恵比須）様などの祠や石碑などが複数見られる。

また、サイン・看板類については、市指定文化財に説明板が設置されているほか、誘導サインが整備されている。

屋外広告物に関しては、主に県道沿いに見られる。設置されたまま放置され、対象施設がなくなっているものなども見られ、適正な管理が必要である。

街道に面した工作物の現状



(2) 地区の課題

松崎地区でのセミナーやワークショップ等に出てきた意見から松崎地区の景観等に関する課題を次のように整理した。

「うらぶれた」イメージ

野田宇太郎は、「稲妻」の詩の中で、松崎を「うらぶれた」まちと表現している。実際、店舗が少なく、人通りの少ない通りを見ると、多くの人は「さみしい雰囲気」を感じている。その要因を次のように整理した。

1) 歩きにくい通り

旧薩摩街道の一部は、主要地方道久留米筑紫野線とつながり、片側1車線で歩道は整備されていない。そのため、さほど交通量は多くないものの、自動車やトラックが脇をかすめるように走り、安全な歩行環境とは言い難い。

また、路肩に電柱があり、歩行スペースが狭かったり、道路との段差があったりすることから、歩きにくい通りという意見が多かった。

南側枡形から南構口までの通りでは、交通量も少なく、電柱類は私有地内に立っており、比較的歩きやすい。



歩行者は車道にはみ出している



路肩に立つ電柱

2) 通りと建物の空いた空間

奥に細長い宅地の形状であるため、奥に新たな建物を建て、道路の前面は駐車場やガレージなどになる場合が多い。その結果、建築物の連続した町並みは失われ、殺風景な通りの景観となっている。



道路に面して駐車場が設けられている



敷地の奥に立つ新しい建物

また、建物が奥に下がることで、前面の空地から本来は見えなかった隣家の側面が丸見えになるなどの問題も見られる。



建物の側面が丸見えになっている



建て替えによって、新しい建物は奥へ、前面は駐車場などになっている

本来通りからは見えない建物の側面や奥の方が見えてしまう

道路に面した空地に、ごみなどが放置されているところもあり、空き家などとともに通りの雰囲気悪くしている。



駐車場に放置されたごみ



空き家

せっかくの歴史が感じられない

1) 歴史が埋もれてしまう状況

松崎地区には、江戸時代以降の各時代を感じさせるものが残っているが、祠などの周りが雑然としていたり、看板類のために、そのよさがあまり感じられない。



祠の周りの雑然とした雰囲気



殺伐とした印象を与える看板

2) 統一感や連続性の欠如

松崎地区には高い建物もなく、街道に面してコンパクトにまとまった集落が形成されている。しかし、建築物の素材やデザインなどには統一感はなく、まち全体として、特別な魅力は生まれていない。また、道路などと私有地を隔てる外構なども生け垣やコンクリートブロックなど様々で、連続性は特に感じられない。



通りや町並みの統一感・連続性は感じられない



様々な素材、様式、デザインの建築物が混在している

(3) まとめ

以上の松崎地区の現状と課題について、主要な通りを中心とした沿道のゾーンごとに、次のように整理した。



○
主な景観資源

ゾーン1 北構口～北側樹形			
交通の現状と課題	沿道の建物の現状と課題	景観上重要な建築物や工作物等	その他
通過交通は少ない。	・白壁、レンガなど個性的な外構と現代的な住宅が混在している。	・北構口（文化財） ・三原家土蔵・洋館 ・上町の恵比須さん	
ゾーン2 県道			
交通の現状と課題	沿道の建物の現状と課題	景観上重要な建築物や工作物等	その他
片側1車線で、多くのゾーンよりも交通量は多い。	・道路に面して駐車場やガレージなどの空地が見られる。 ・空き家が見られる。 ・一部白壁なども残るが多様な様式の建築が混在している。	・旅籠油屋(文化財) ・旅籠一松屋	・電柱が路肩に立ち、歩行環境は良くない。 ・店舗も少なく、賑わいに乏しい。
ゾーン3 南側樹形～南構口			
交通の現状と課題	沿道の建物の現状と課題	景観上重要な建築物や工作物等	その他
比較的通過交通は少ない。	・ほとんどが住宅で、様式やデザインの統一感などはない。 ・一部、空き地、空き家が見られる。	・旅籠鶴小屋 ・南構口（文化財） ・下町の恵比寿さん	・電柱が私有地に立っている。
ゾーン4 桜馬場			
交通の現状と課題	沿道の建物の現状と課題	景観上重要な建築物や工作物等	その他
通り抜けをする通過交通が多い。	・保育所、高校、神社、公民館など公的施設が立地している。 ・桜並木、土塁、背後の藪など自然環境が豊かである。 ・法務局跡がある。	・桜並木 ・野田宇太郎文学碑 ・中町の恵比寿さん ・鳥居	・桜並木があり、低い街灯が特徴的である。

4 . 景観形成の目標と方針

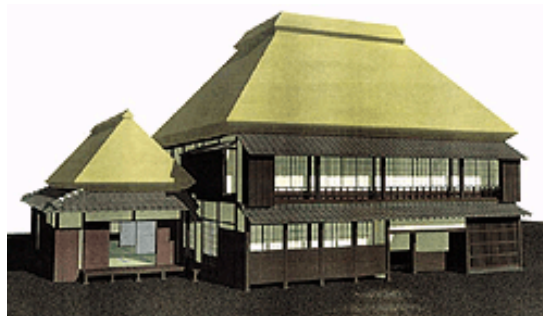
(1) 景観形成の目標

これまでの松崎地区の歴史的な背景と現状、課題などを踏まえ、景観形成の方向性と目標を次のように整理した。

旅籠油屋の保存運動の展開

平成 15 年度には「旧松崎旅籠油屋保存整備基本計画書」が作成され、同計画書でも油屋の保存修理とともに、線的な整備、回遊性の創出、町並みの修景などが提案されている。

旅籠油屋の修復に関しては、財政的な問題などもあるが、将来、地域住民の方が主体的に利活用していくためにも、町並み全般に対する意識啓発や景観形成を基礎としたまちづくりの意識を醸成していくことが必要である。



旅籠油屋復元 C G

数多く残る歴史的資源の活用

松崎地区には旅籠油屋だけでなく、各年代の歴史的な建築物や構口、枡形などの遺構、祠など、地区の歴史を物語る資源が数多く点在している。

今後、このような点的な資源をつなぎ、線・面的な広がりを持って、地区の魅力づくりを進める必要がある。

豊かな自然資源・文化の活用

長い歴史を持つ松崎地区は、建造物などのハード的な資源だけでなく、豊かな自然環境や文化などを育んできた。特に野田宇太郎の感性を育んだ環境を大切に後世に伝えていくことが重要であると考えられる。

町並みへの配慮と調和

松崎地区の豊かな歴史や自然環境を守り、育てながら、個々人の現代的な生活の利便性と快適性を調和させることが必要不可欠である。そのためにも、地域の方々や来訪者が、町並みに配慮するような調和のためのルールづくりが重要だと考えられる。

以上より、松崎地区の景観形成の目標を次のように定める。

文学と街道の歴史の香りがする、歩いて楽しい「景観まちづくり」の推進

(2) 景観形成の方針

松崎地区の景観形成の方針を次のように定める。

- 歩いて楽しい街道づくり
- まちなかでの文化的表現活動の展開
- 歴史的建造物を活用した賑わいの拠点づくり
- まちの大切な場所（スポット）のお手入れ



ゾーン毎の景観形成の方針

	景観形成の方針	内容
ゾーン 1	三原家土蔵と洋館を活用した文化の感じられる景観まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎の歴史的な雰囲気を感じさせる道路空間の整備 ・文化的な景観まちづくりの拠点としての三原家土蔵・洋館の活用 ・北構口、上町恵比須さん、松崎公園などスポットとなる空間の整備
ゾーン 2	宿場町の賑わいの感じられる景観まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・旅籠油屋の保存修復の推進と活用 ・松崎の歴史的な雰囲気を感じさせ、歩きやすい道路空間の整備 ・沿道空間の連続性、統一感の醸成 ・賑わいの感じられるスポットづくり
ゾーン 3	鶴小屋を活用した歴史的な趣の感じられる景観まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・景観まちづくりでの旅籠鶴小屋の活用 ・松崎の歴史的な雰囲気を感じさせる道路空間の整備 ・沿道空間の連続性、統一感の醸成 ・南構口、下町恵比寿さんなどスポットとなる空間の整備
ゾーン 4	桜並木の自然環境と調和した景観まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎の歴史的な雰囲気を感じさせる道路空間の整備 ・桜並木の保存 ・自然環境を活かした沿道空間の整備

5 . 今後の具体的な展開案

(1) 短期的な活動の展開

長期的な目標を見据えながら、景観まちづくりに向けた地域住民の方々の意識啓発やまちづくりの方向性の共有化を図るために、次のような短期的な活動の展開を検討する。

歩いて楽しい「通り」づくりの推進

松崎地区の「景観まちづくり」のルールづくりを推進するための「松崎景観憲章(仮称)」の策定

松崎の歴史的資源の周知・広報

松崎の歴史的資源の活用

活動案	
松崎歴史散歩ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・「松崎ウォーキングマップ」づくり ・「松崎歴史ガイド」による案内 ・「松崎弁当」によるおもてなし ・「松崎百年ばなし」朗読会 ・「松崎模型」づくり ・「松崎まちづくりアンケート」の実施
まちづくり活動	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの小さなお手入れ ・空地・空家の活用 ・案内看板、目印の表示
継続的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎のお祭りやイベントの案内
学習会・視察	<ul style="list-style-type: none"> ・保土ヶ谷 ・彦根 など

(2) 長期的な活動の展開

市街化調整区域である松崎地区では、今後、建物の建て替え・更新や新たな居住者を受け入れながら地域コミュニティを維持し、持続的なまちの環境を整備し、さらに、地域住民と来訪者が共有できるルールづくりが必要である。したがって、「景観まちづくり」を進めながら、地域の歴史・資源を活用し、魅力ある環境の整備を進めるために、次のような長期的な活動の展開を検討する。

空き家バンクなどによる支援制度の整備

街路、オープンスペース、サイン等の面的整備

建築協定や地区計画などによる歴史的資源を活用した住環境の維持・形成

6 . 平成 18 年度の調査プロセス

平成 1 8 年度の活動内容概要

日時	活動	概要
5月9、10日	松崎探検	立石小学校3～6年生約30人に、松崎に話し、松崎地区の調査を行った。
7月15日	景観セミナー	田主丸町で地域づくりを実践されている高山美佳さんを講師に招き、景観セミナーを開催した。
10月26日	フィールド・サーベイ	旧薩摩街道を中心に、建築物、工作物等のフィールド・サーベイを実施した。(協力：九州産業大学)
12月2日	わがまちウォッチングワークショップ	実際に松崎地区を歩き、地区の問題点や課題をワークショップ形式でとりまとめた。
1月31日	類似施設視察	福津市津屋崎町「藍の家」を訪問し、施設の視察と保存・活用についてお話をうかがった。
2月10日	福岡県景観大会での活動報告、パネル展示	平成18年度の活動を発表するとともに、パネルの展示を行った。
3月21日	夜なべ談義	「松友会」の夜なべ談義にて、地域の方々に今後の景観に関するまちづくりの説明を行った。
4月1日	桜まつり (松崎街道百年ばなし)	三原家洋館の活用の試みとして、「松崎街道百年ばなし」の朗読会を行った。

(1) 松崎探検

- ・日時：平成 18 年 5 月 9、10 日（火、水）
- ・場所：立石小学校、松崎地区
- ・参加者：立石小学校 3～6 年生約 30 人

事前学習

- ・地域の方々から松崎というまちの歴史や松崎での生活に関するお話をうかがった。

- a . 「松崎は、どうやって生まれたの？（松崎の成り立ちのお話）」

講師：山田茂さん

- b . 「松崎は、どのように変わってきたの？（100 年前から現在までのお話）」

講師：磯部富士夫さん、野口恭彦さん

- c . 「松崎の今の生活（生業と生活のお話）」

講師：成富一利さん、小松ヤスエさん

松崎探検の準備

- ・ 3 つのグループに分かれ、お話を聞いて、探検するコースと調べるものなどを整理した。

松崎探検

- ・グループ毎に松崎のまちを散策し、旅籠油屋や旧三原別邸などを見学した。

まとめ

- ・松崎探検の結果を模造紙にまとめた。



立石小学校での授業の様子



立石小学校での授業の様子



松崎探検の様子



松崎探検の様子

松崎探検のまとめ



(2) 景観セミナー

- ・日時：平成 18 年 7 月 15 日 (土) 14:00 ~ 17:00
- ・場所：松崎公民館
- ・参加者：約 30 名

松崎公民館にて景観セミナーを開催。久留米市田主丸町で地域づくりに関わっておられる高山美佳さんが、松崎のいいところ、気になるところ、もったいないところを説明されました。

また、「山苞の道」や吉井町の「コスモス 16」の活動などを通じて、「景観を守ることが、遠回りだがまちを豊かにする」ことを体験され、野田宇太郎を育てた松崎のまちの持つ魅力や可能性について話されました。

今後、街道の景観や緑を大切にしながら、景観づくりに取り組んでみては、という提案もありました。



景観セミナーの様子



景観セミナーの様子



景観セミナーの様子

(3) フィールド・サーベイ

- ・日時：平成 18 年 10 月 26 日（木）
- ・場所：松崎地区
- ・参加者：九州産業大学学生 6 名

調査内容

- ・建築物 - 用途（住宅、店舗、公共施設、空き家）
- ・建築物 - 形態（構造、高さ、建築様式）
- ・敷地と道路の境界部分（生け垣、石垣、ブロック塀）
- ・樹木、草木の分布
- ・祠（ほこら） 記念碑、石碑などの分布
- ・工作物（電柱、街灯、看板、広告物）
- ・オープンスペース（空き地、駐車場、公園）
- ・遠くに見える風景（山並み）
- ・その他、いいなと思った風景、気になったもの、変だなと思ったこと（写真・撮影場所）



フィールド・サーベイの様子

(4) わがまちウォッチングワークショップ

・日時：平成 18 年 12 月 2 日（土）13:00～17:00

フィールド・サーベイ結果等の発表

まちあるき

- ・まちあるきの視点などの確認。
- ・2グループに分かれ、松崎のまちを散策。

ワークショップ

- ・グループ毎にまちあるきの感想などを取りまとめた。

「わがまちウォッチングワークショップ」では、まず、松崎地区をいっしょに歩き、その後、まちの感想や問題点などをまとめました。現在の松崎地区の通りは、店舗も少なく、多くの人が「さみしい」と感じたようです。その原因のひとつとして、歩道がなく、歩にくい通りの問題が指摘されました。敷地の奥の方に建物が建て変わった場合、道路に面して「空いた空間」が生まれており、そこが駐車場などになると殺風景な景観をつくってしまっているようです。

また、「せっかくの歴史が感じられない」という指摘もありました。松崎地区には歴史を物語るものがたくさんありますが、一部だけが残っていても、なかなか目に止まらないことが多いようです。また、そのような歴史的な資源の周りに看板や広告物など、現代の様々なものが町に溢れ、せっかくの歴史を感じられないような状態になっているようです。

今後、歩きやすい通りづくりや賑わいのある通りづくり、統一感のある町並みづくりなどに取り組む必要があるようです。



まちあるきの様子



ワークショップの様子

(5) 類似施設視察

- ・日時：平成 19 年 1 月 31 日（水）
- ・場所：福津市津屋崎町「藍の家」
- ・参加者：約 25 名

福津市の津屋崎にある「藍の家」の視察に行きました。津屋崎はかつて海上交易などで賑わい「津屋崎千軒」と呼ばれていました。「藍の家」は、明治期の染物屋の建物で、平成 4 年に保存運動が起こり、現在、民俗館として、地域文化情報の発信や各種展覧会、講習会やミニコンサートを開催しています。

松崎地区と同じく、特別な観光地ではなく、地域の方々の生活やコミュニティと密着した場所として活用されており、旅籠油屋などの活用の参考となりました。



「藍の家」でのお話



「藍の家」の外観



「藍の家」の内部

(6) 福岡県景観大会での活動報告、パネル展示

- ・日時：平成 19 年 2 月 10 日 (土)
- ・場所：アクロス福岡
- ・参加者：約 10 名



活動報告の様子



パネル展示の様子

(7) 夜なべ談義

- ・日時：平成 19 年 3 月 21 日 (水)
- ・場所：松崎公民館
- ・参加者：約 50 名

(8) 桜まつり (松崎街道百年ばなし)

- ・日時：平成 19 年 4 月 1 日 (日)
- ・場所：三原家洋館
- ・参加者：約 20 名



松崎街道百年ばなしの様子

三原家洋館の活用方法の一例として実施。

平成 18 年度

筑後広域風致景観のルールづくり 景観モデル地区

小都市松崎地区 景観形成の方針

報告書

筑後景観協議会

【研究受託】九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門出口研究室

(株)環境デザイン機構

平成 19 年 5 月